

横浜市立 斎藤分小学校

令和 7年度

中期学校経営方針振り返り

学校 教育 目 標	「ひびきあう心 輝く笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」				
	(知) 進んで学び、最後まで粘り強く課題に取り組むようにします。 (徳) 豊かな関わりを通して、思いやりの心をもち、自分も人も大切にするようにします。 (体) 運動や体力づくりを通して、心身ともに健やかに生活するようにします。 (公) 進んで人とつながり、地域や社会の一員としての自覚をもつようにします。 (開) 様々な人との関わりを通して、多様な考えにふれ、共生する力を育むようにします。				
学校 概要	創立 67 周年	学校長 和田 みずほ	副校長 小笠原 洋平	2 学期制	一般学級： 8 個別支援学級： 2
	児童生徒数：	216 人	主な関係校： 六角橋中学校 栗田谷中学校 松本中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	六角橋中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する力〉	六角橋中学校 神橋小学校 中丸小学校 神大寺小学校	夢・希望・目標をもち、主体的に行動する子どもを育成する ・年に2回の合同授業研究会では、各教科・領域においてICT機器を活用して、子どもの主体的な学びを引き出す教育活動を展開する。 ・自己選択や決定の場の設定を工夫するなどして、児童・生徒一人ひとりの思いや考えを大切にしながら、人権教育や児童生徒指導を実施する。 ・児童生徒交流会では、主体的な活動ができるようにする。

中期 取組 目 標	○子ども一人ひとりの考えを大切にしながら、課題解決の学びを充実させます。 ・1年目は学習の目的と見通しをもち学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・2年目は1年目の内容に加え、伝え合う力を育てる授業づくりを推進します。 ・3年目は1・2年目の内容に加え、自分の考えを深め、生活や地域につなぐ授業づくりを推進します。 ○規則正しい生活・安全な行動を心がけ、心も体も健康な学校生活が送れるようにします。 ○地域や保護者とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。 ・3年間を通して、自分も他の人も大切にし、安心して学校生活を送り、豊かな体験から自己有用感をもつことができるようになります。
--------------------	--

重点取組分野		具体的取組の結果
知	授業改善	算数科の授業研究を通して自力解決の方法を複数提示したり、子ども自身が自身の学習を振り返る場面を設定することで、子どもが課題に主体的に向き合い、自分に適した方法を選んで粘り強く取り組む姿が見られるようになった。また、教職員同士で子どもたちの強みや弱みを共有し、目指す方向性について協議を重ねることで、系統性を意識した授業づくりの柱が明確になってきた。今後も、見通しのもてる授業づくりと、子どもの主体性を大切にした授業づくりを継続して取り組んでいきたい。
担当	重点研推進委員会	
徳	人権教育	年間を通して異学年交流を実施した。全校遠足や丘リンピック、英語キャンプなど、たてわり活動においては、ねらいを明確にすることで、他者を思いやった行動や優しい声かけが定着した。また、人権週間には「ふわふわの木」の取組を行い、日常的に使っている言葉が相手に与える影響について考えることで、友達とのよりよい関わり方を意識できるようになった。さらに、YP支援検討会を実施し、担任だけでなく複数の教職員で、個々の子どもや学級全体の状況を共有して支援方針を検討することで、組織的な支援体制を確立することに繋がった。
担当	道德部	
体	健康・安全教育	体育の朝会や集会では、ラジオ体操、ストレッチ、ダンス、リズムジャンプ、ミニ運動会を実施した。体育委員が活動のストーリーを考えたり、リズムジャンプの新しい動きを創作したりするなど、子どもが主体となって運動を楽しめる取組を推進した。また、ロング昼休みには用具の貸し出しを行い、一人ひとりが運動に親しみやすい環境を整備した。さらに、保健指導・衛生指導に加え、安全研修や水泳の事前指導研修を実施し、指導者の安全意識を高めた。次年度以降の課題としては、教員の授業力を一層高められる環境整備をしていくことが挙げられる。
担当	体育部	
公開	外国語教育	年間を通して、コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指し、指導の充実を図り、他者と積極的に関わろうとする態度や自己表現力の向上を推進した。日々の授業や子どものアイデアを生かした英語キャンプでは、AETや教師、英語サポーター、異学年との交流を通して、多様な考えや思いをもつ人々と関わる経験を積み、協働・共生の意識を育成した。さらに、国際理解教室では日本とアルゼンチンの文化や習慣の違いを学び、異文化理解を深めた。次年度は、授業と行事の連動を図り、実践的なコミュニケーション力の育成を一層推進していく。
担当	教務部	
いじめへの対応		毎日の健康観察や定期的を実施するアンケートを活用するとともに、SC・SSW等の外部機関と連携し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組んだ。また、人権週間の活動や子ども会議での話し合いを全校に広げる取組を通して、子ども自身が考える未然防止の意識を高め、人権意識の向上を図った。さらに、子どもの不安が大きくなる前に対応することを全職員で共通理解し、定例・臨時のいじめ防止対策委員会を適切に実施した。今後も、家庭・地域・外部機関との連携を深め、子どもの不安に寄り添った支援を継続する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		キャリアステージに応じた人材育成指標を踏まえ、自主研修の推進や校外研修に参加しやすい環境整備を進めた。校内OJTやメンターチームの活動を通して、教職員一人ひとりの資質・能力の向上を図った。また、ICTを活用した情報共有を進め、風通しのよい組織づくりを推進し、教育活動や生徒指導等の課題に組織的に対応した。さらに、教職員がワークライフバランスを意識しながら業務を進め、組織として働き方改革を一層推進した。次年度も、学び合う文化の醸成を基盤に、人材育成と組織力の向上を継続して図っていく。
担当	教務部メンターチーム	
児童生徒指導		職員会議や各種打ち合わせ、いじめ防止対策委員会において、子どもの状況を全職員で共有し、指導方針の統一を図った。また、年2回のYPアセスメントやアンケートを実施し、子どもの実態を的確に把握することで、安心して学習できる学級づくりにつなげた。さらに、斎藤分小学校のスタンダードを基盤に、どの教職員も共通した指導が行えるよう共通理解を図るとともに、実態や状況に応じて見直しを行った。その結果、子ども自身が安心して学校生活を過ごしていると感じている声が多かった。今後も、子どもがルールの意義を理解し、主体的に守ろうとする意識を育てるため、子どもの声を丁寧に受け止めた指導を継続する。
担当	児童指導委員会	
特別支援教育		情報の可視化や学び方を自ら選択できる場面の設定を通して、ユニバーサルデザインを意識した学習環境を整備した。また、子どもや保護者の思いに丁寧に耳を傾けながら、個別の支援計画や指導計画を作成し、きめ細やかな支援を推進した。さらに、全職員を対象に特別支援教育に関する研修を実施し、個に応じた指導への理解を深め、共通認識を図った。今後も、子どもが安心して学び、自ら設定した目標に向かって主体的に努力できるよう、支援体制の充実を継続する。
担当	特別支援推進委員会	
安全管理		学校安全計画・学校保健計画などに基づき、月1回程度の避難訓練や、嘔吐時の対応等の保健に関する研修を実施し、子ども・職員ともに災害や事故発生時に適切な行動がとれる体制を整えた。また、体育における安全面や技能面について職員間で情報交換を行い、指導者の安全意識と指導力の向上を図った。さらに、タブレット端末の持ち帰りにあたり、学校と家庭が連携して情報リテラシーに関する理解を深め、安全に端末を活用できるよう指導を行った。今後も、ICT機器を取り巻く状況の変化に対応できるよう、情報収集と体制整備を継続する。
担当	情報推進委員会	
地域連携 学校運営協議会		学校便りや懇談会、学校運営協議会、学校説明会・報告会等を通して、積極的な情報発信に努め、子ども・保護者・地域にとって魅力ある学校づくりを教職員一丸となって推進した。また、学校の実情についてアカウンタビリティを意識し、教育活動の成果と課題を振り返った。その結果、本年度の保護者による学校評価アンケートでは、情報発信に関して98%以上の高い満足度を得た。今後も、学校評価や児童アンケートの結果を分析し、具体的なアクションプランを策定することで、よりよい教育活動の推進に繋げていきたい。
担当	教務部	